生徒に見られるつまずき

　書き手のものの見方や考え方を伝えるための、論理の展開の意図を読みとることができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

「本論」の例示のみを提示し、そこから「結論」の内容を推測し、仮説を立てて友達の仮説と比べることで、整合性のとれた展開を考えることができるようにする

指導事例集ｐ．４３

１　学年・単元名　第３学年　わかりやすく伝える「間の文化」三省堂（読むこと領域）

２　単元目標

　　文章の構成や展開をとらえ、内容の理解ができるようにする。

３　単元の内容

・「本論」の例示だけを提示し、例示から「結論」を推測する。

資料：ワークシート①

　　　記入済みワークシート

・「本論」→「結論」の展開を考え、仮説を個人で立て推測する。（本時）

資料：ワークシート②

　　　記入済みワークシート

・筆者の論理の展開とグループの仮説を比較検討する。（本時）

・学習した説明文の形式を使って作文を書く。

４　本時の目標

（１）本論の要旨をつかみ、作者の意図を把握することができる。

（２）本論から論理の展開を考え、「結論」を推測することができる。

（３）仲間の意見を聞き、自分の考えと比べ、そこから学んだことをまとめることができる。

５　本時の展開　**太字はつまずきに対する手立て**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 生徒の活動 | 指導上の留意点 |
| 導入 | １．前時の復習と本時の目標の確認。  ワークシート① | ・展開時に目安をしっかり持ち、比較検討できるように、本論の展開をキーワードでもう一度押さえておく。 |
|  | ２．表現の特色について考える。  　・「結論」を考える。  ①仮説を個人で立て推測する。 | ①　「本論」から「結論」の展開の一例である「帰納法」を説明し、今回は帰納法が使われていることを確認する。「間」が日本の生活や文化の中でどのような働きをするのか思いつくままに記入させる。  ワークシート②使用。    **＊結論が思いつかない生徒に対しては、前時で推測したことを思い出させ、その中で（茶道なら）どのような働きをしているかに注目させる。** |
| 展開 | ②グループの中で「本論」→  「結論」の展開を交流する。  （もっとも根拠のしっかりしているものを選出。）  ③全体で代表者が発表する。  ④自分が一番納得したものを選ぶ。  ３．筆者の論理の展開を知る。  ４．筆者の論理の展開とクラスの仮説を比較検討する。  ・２の③で選出したものと作者の論理の展開を比較検討して学んだことをシートにまとめる。 | ②　一般化するということで、誰もがそう思うものを選出するようにさせる。  ③　発表時には、根拠に例示を用いたりするように声かけをする。（例えば、「茶道の中で「間」は〇〇のような働きをしていると言えるので……。」というような発表の仕方。  ④　筆者の意見と比較する材料として使用する。  ○帰納法を使って説明しながら提示をする。  ワークシート③使用  ○選んだものを結論部分に記入させ、比べて感じたことを比較させまとめさせる。 |
| まとめ | ５、本日の振り返りを行う。 | ○帰納法についての振り返りを中心にさせる。  ○次回は「高校の志望理由」について考える生活作文を書くことを予告しておく。 |